

2019
年度

赤十字血液 in 福島 シンポジウム東北

～献血者の健康を守る～

参加費
無料

参加者事前受付に
ご協力ください。

シンポジウム

- 第1部 「献血者の健康と栄養学」
- 第2部 「献血者の健康と血液事業」

特別講演

- 1 「スポーツコンディショニング
～1滴の血液が教えてくれること～」
福島大学人間発達文化学類 教授 川本 和久 氏
- 2 「赤血球造血と鉄代謝」
東北大学大学院医学系研究科 血液・免疫病学分野 教授
張替 秀郎 氏

福島県赤十字血液センター

〒960-1198

福島県福島市永井川字北原田17

TEL 024-544-2550

●詳しくはホームページへ!

2019年度赤十字血液シンポジウム東北

参加者事前受付にご協力ください。



お問合せ

会場 ポラリス保健看護学院
メグレスホール
(福島県郡山市向河原町159-1)



2019年度 赤十字血液シンポジウム 東北

日時 2019年11月9日(土)
13:00～17:30 (受付 12:00～)

会場 ポラリス保健看護学院メグレスホール
(福島県郡山市)

入場 無 料

主催 日本赤十字社東北ブロック血液センター
福島県赤十字血液センター

後援 福島県
郡山市
日本医師会
日本看護協会
日本病院薬剤師会
日本臨床衛生検査技師会
日本輸血・細胞治療学会

各種認定

日本医師会生涯教育制度、日本薬剤師研修センター
認定薬剤師制度又は日病薬病院薬学認定薬剤師制度
のいずれか、日本臨床衛生検査技師会生涯教育研修
制度、日本輸血・細胞治療学会が指定する認定制度
(輸血認定医、認定輸血検査技師、学会認定・自己血輸血看護師、
学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・アフエレーシスナース)

《 プログラム 》

13 : 00 ～ 13 : 05

開会挨拶 福島県赤十字血液センター所長 氏家 二郎

13 : 00 ～ 14 : 55

第一部 シンポジウム 「献血者の健康と栄養学」

座長：福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座 教授 池田 和彦
郡山女子大学 食物栄養学科 准教授 岡部 聡子

講演 1 貧血大国・日本 放置されてきた国民病の原因と対策

ナビタスククリニック（立川・新宿） 内科医師 山本 佳奈

講演 2 ヘリコバクターピロリ菌の基礎知識～鉄欠乏性貧血との関連も含めて～

福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部 部長・准教授 引地 拓人

講演 3 健康を支える栄養学

NPO 法人ヘルスプロモーションセンター 理事長 医師 佐藤 和子

14 : 55 ～ 15 : 35

第二部 シンポジウム 「献血者の健康と血液事業」

座長：福島県赤十字血液センター 部長 菅野 隆浩

講演 1 福島県献血者におけるヘモグロビン値不適格者の分析

福島県赤十字血液センター 採血課 仙波ゆかり

講演 2 献血者の鉄代謝についての検討

神奈川県赤十字血液センター 副所長 大久保理恵

14 : 35 ～ 15 : 45（休憩）

15 : 45 ～ 16 : 35

特別講演 1

座長：山形県赤十字血液センター 所長 渡辺 眞史
「スポーツコンディショニング～1 滴の血液が教えてくれること」
福島大学 人間発達文化学類 教授 川本 和久

16 : 35 ～ 17 : 25

特別講演 2

座長：宮城県赤十字血液センター 所長 峯岸 正好
「赤血球造血と鉄代謝」
東北大学大学院医学系研究科 血液・免疫病学分野 教授 張替 秀郎

17 : 25 ～ 17 : 30

閉会挨拶 青森県赤十字血液センター所長 柴崎 至

《 講演要旨 》

第一部 シンポジウム 「献血者の健康と栄養学」 13:00 ~ 14:55

講演1 貧血大国・日本 放置されてきた国民病の原因と対策

世界で20億人以上が鉄欠乏であり、鉄欠乏症は貧血の最も一般的な原因だ。高所得国の鉄欠乏の要因として野菜中心の食生活や赤身の摂取不足などが挙げられる。大多数の女性は細身の身体像を追求して栄養摂取を制限しており、特に東アジアにおいて顕著だ。そこで、上海と東京の若年女性の貧血の罹患率と、BMI低下と鉄欠乏との関連の有無を調べた。また、アスリートは筋肉量増加や発汗、運動中の血管内容血等により鉄需要が増す結果、鉄欠乏性貧血のハイリスク群だが、剣道選手の鉄欠乏状態を評価した既存研究はない。我々は、大学剣道トップアスリートを対象とし鉄欠乏性貧血の実態も調べた。

講演2 ヘリコバクターピロリ菌の基礎知識～鉄欠乏性貧血との関連も含めて～

胃がんの原因のほとんどが、ヘリコバクターピロリ菌（以下ピロリ菌）であることが分かっている。ピロリ菌の感染時期は、乳幼児期であり、大人になってから感染することは稀である。また、ピロリ菌がいない人に比べて、ピロリ菌がいる人は、鉄欠乏性貧血になる危険性が約3倍高いとされている。ピロリ菌感染がある鉄欠乏性貧血の方に対して除菌治療が推奨されており、除菌後に血清ヘモグロビン値と血清フェリチン値が改善するとされている。

講演3 健康を支える栄養学～「正しい食生活」のすすめ～

我々の体は、食べたもので作られているが、「いつ、何を、どれだけ、どのように食べたか」によって、健康にも病気にもなりうることを、どれだけ深く理解しているだろうか？

潰瘍性大腸炎や膠原病の方でも「誤った食生活」から「正しい食生活」に変更したことで完治した例もある。我々は自然治癒力をもっているのも、栄養素（原料）不足が問題なのである。今回、健康で活躍するための「健康を支える栄養学」を概説した後、「正しい食生活」の4つの基本、健康と病気の関係、睡眠の重要性等について述べる。

第二部 シンポジウム 「献血者の健康と血液事業」 14:55 ~ 15:35

講演1 福島県献血者におけるヘモグロビン値不適合者の分析

血液事業では近年400mL献血率の推進をしているが、ヘモグロビン値不足で不適合になることも多く、献血推進の課題の一つとなっている。この問題解決に向け、当該不適合者の実態を分析し、ヘモグロビン値改善に向けての取り組みについて報告する。

講演2 献血者の鉄代謝についての検討

現在の献血業務は、昭和59年度厚生省血液研究事業の報告でまとめられた採血基準（案）が元になり実施されているところである。事前にヘモグロビン（以下Hb）測定をし、Hb低値の人からの献血を避け、献血者保護を行ってきた。今まで献血者の鉄代謝についていくつか研究されてきたが、詳細な鉄代謝についての研究は行われていない現状であった。今回、今までに行われた鉄代謝についての検討と平成30年度から行われている「献血者体内貯蔵鉄の動態に関する検討」の進捗状況を報告する予定である。

特別講演1 「スポーツコンディショニング～1滴の血液が教えてくれること～」 15:45 ~ 16:35

疲労の原因のひとつは活性酸素（酸化ストレス）だと言われている。運動強度による活性酸素の発生量の違いを考慮して、トレーニングを組み立て、疲労をコントロールしている。併せて、酸化ストレス・抗酸化力テストの測定値から、潜在的抗酸化能を算出し、コンディショニングを正確に把握できるので、絶好調で競技会に臨めるようになった。現在は、酸化ストレスを消し去る試みを続けている。

特別講演2 「赤血球造血と鉄代謝」 16:35 ~ 17:25

鉄は酸素運搬を担う必須の元素であり、体内の鉄のおよそ70%が赤血球のヘモグロビン鉄として利用されている。従って、赤血球造血を考察するうえで鉄代謝を理解することは非常に重要である。本講演では、鉄利用の制御機構と赤血球造血、さらに鉄代謝異常に関連する貧血について最近の知見を紹介する。

《 参加申込方法 》

参加申込なしでのご参加は可能ですが、参加者事前受付にご協力ください。

「2019 年度赤十字血液シンポジウム東北」のホームページ

https://www.bs.jrc.or.jp/th/bbc/special/m6_04_00_index.html にアクセスして参加申込書をダウンロードし、必要事項をご記入いただき、FAX にてお申し込みください。

参加申込先 FAX 番号:022-777-8366

《 問い合わせ先 》

福島県赤十字血液センター 学術情報・供給課（学術担当）

電話 024-544-2556 FAX 024-544-0990

《 会場案内 》



会場アクセス

● 新幹線、在来線でお越しの場合
郡山駅より徒歩 約11分

● お車でお越しの場合
郡山ICより 約15分

※駐車場に限りがございますので、公共交通機関でのご来場にご協力ください。

● 詳しくはホームページへ!

2019年度赤十字血液シンポジウム東北

検索

参加者事前受付にご協力ください。

